

序 文

日本下水道事業団（JS）は、下水道事業を実施する地方公共団体の支援・代行機関として設置された地方共同法人であり、下水道施設の実施設計・建設工事等事業の他、技術開発部門を有することが組織の大きな特徴です。JS では、昭和 47 年以來、地方公共団体の皆様のご要望にお応えして、多数の新技术を研究開発、評価、普及させ、下水道事業の新たな展開や効率化に携わって参りました。また、新技术の開発に加えて、下水道事業の実施過程で生じるさまざまな課題の解決にも取り組んでいます。

JS 技術戦略部において、平成 28 年度は、39 テーマについて調査研究を行い、そのうち 21 テーマが完了し、多くの成果をあげることができました。

主な内容としましては、下水道革新的技術実証事業（B-DASH プロジェクト）において、省エネ型の水処理技術、下水汚泥の肥料化・燃料化技術、CO₂分離回収技術と微細藻類培養への利用技術等について試験研究を実施しました。また、水素社会における下水道資源利活用についても調査研究を実施しました。

また、民間企業等との共同研究については、63 件を実施し、22 件が完了しました。

共同研究では、下水道事業における品質向上・業務効率化に向けての下水道分野への CIM 導入に係る調査研究、本年度から本格運用する JS 版工事情報共有システム（JS-INSPIRE）に関する調査研究、水処理・汚泥処理に関する調査研究等を実施し、これらのうち一部技術については「JS 新技术導入制度」による新技术 I 類に選定されました。

なお、本報告書には記載していませんが、汚泥処理等に関する ISO 国際標準化促進検討業務や、東日本大震災からの復旧・復興を支援するため、放射性物質の分離による焼却灰及び汚染土壌の資材化実証調査なども実施しました。

開発された技術については、学会等における成果発表や下水道研究発表会などにおいて、水処理の省エネ化、新しい汚泥処理システムを中心とした新技术の開発成果として報告するなどの活動を行い、その技術の普及・拡大に努めて参りました。

この「技術開発年次報告書」は、JS における技術開発の 1 年間の活動の集大成として作成しております。ご一読いただき、皆様の業務においてご活用頂ければ、職員一同望外の喜びです。また、毎月メールにてお届けしています「JS 技術開発情報メール」も、併せてご覧頂くようお願いする次第です。

最後に、本年度より JS 第 5 次中期経営計画及び技術開発基本計画（第 4 次計画）がスタートしました。今後もこれら計画の基本理念である地方公共団体等のニーズに応えるべく、また、下水道事業全体の発展に寄与すべく、信頼性が高く、低コストの先進・先導的な新技术の開発・実用化、成果の普及に努めてまいります。

平成 29 年 9 月

技術戦略部長 日高 利美